確認試験
⑴　本品１個又は本品１個を適量の温湯に溶かした液について、ガンマ線測定法のGe半導体検出器による測定法により試験を行うとき、0.159MeVにピークを認める。
⑵　純度試験⑴により確認する。
純度試験
⑴　放射化学的異物　本品１個を適量の温湯に溶かした液について、ヨウ化ナトリウム0.5ｇ、ヨウ素酸ナトリウム1.0ｇ及び炭酸水素ナトリウム5.0ｇに水を加えて溶かして100mLとした液１滴を担体として、75vol%メタノールを展開溶媒として、ろ紙クロマトグラフィーにより約10㎝展開して試験を行うとき、ヨウ化ナトリウム（^{123}I）のスポット以外の放射能は、ろ紙上の総放射能の５%以下である。
　なお、ヨウ化ナトリウム（^{123}I）のスポットは、デンプン試液、希酢酸及び亜硝酸カリウム試液をそれぞれ均等に噴霧したときの呈色により確認する。
⑵　異核種　本品について、ガンマ線測定法のGe半導体検出器による測定法の放射能の定量により放射能を測定するとき、検定日時において、ヨウ素123以外の放射能は総放射能の0.3%以下である。
定量法
　本品１個又は本品１個を適量の温湯に溶かした液について、ガンマ線測定法の放射能の定量により放射能を測定する。
34　15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）メチルペンタデカン酸（^{123}I）注射液
　本品は、水性の注射剤で、ヨウ素123を15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）―メチルペンタデカン酸の形で含む。本品は、担体として、15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）―メチルペンタデカン酸を含む。本品は、定量するとき、検定日時において、ヨウ素123の表示された放射能の90～110%を含む。
製法
　本品は、キセノン124に陽子を照射して生成するセシウム123及びキセノン123の壊変によって得られるヨウ素123を15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）―メチルペンタデカン酸のヨウ素原子と置換させた後、注射剤の製法により製する。
性状
　本品は、無色澄明の液である。
確認試験
⑴　「ヨウ化ナトリウム（^{123}I）カプセル」の確認試験⑴を準用する。
⑵　純度試験⑴により確認する。
pH
　8.2～9.2
純度試験
⑴　放射化学的異物　ヨウ化ナトリウム0.5ｇ、ヨウ素酸ナトリウム1.0ｇ及び炭酸水素ナトリウム5.0ｇに水を加えて溶かして100mLとしたこの液の適量を担体として、メタノール／酢酸（100）混液（40：１）を展開溶媒として、薄層クロマトグラフィーにより約10㎝展開して試験を行うとき、15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）―メチルペンタデカン酸（^{123}I）のスポット以外の放射能は、薄層上の総放射能の５%以下である。
　なお、15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）―メチルペンタデカン酸（^{123}I）のスポットは、15―（４―ヨードフェニル）―３（R，S）―メチルペンタデカン酸標準液を担体を用いずに同様に展開し、薄層板をヨウ素蒸気にさらしたときの呈色により確認する。また、薄層板は薄層クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを用いて調製する。
⑵　異核種　「ヨウ化ナトリウム（^{123}I）カプセル」の純度試験⑵を準用する。
⑶　銅　本品0.5mLにクエン酸水素二アンモニウム溶液（１→10）0.5mL、塩化ヒドロキシルアンモニウム溶液（１→10）0.5mL及び0.1mol／Ｌクエン酸三ナトリウム試液50μLを加える。バソクプロイン・エタノール試液0.3mLを加え、振り混ぜた後、１―ヘキサノール0.5mLを加え、15秒間振り混ぜる。このとき、１―ヘキサノール層の呈する淡橙黄色は、次の比較液より濃くない（１ppm以下）。
　比較液：硫酸銅（Ⅱ）五水和物0.157ｇを正確に量り、水及び硫酸70μLを加えて溶かし、正確に200mLとする。この液1.0mLを正確に採り、水及び硫酸30μLを加えて正確に200mLとする。この液0.5mLを正確に採り、同様に操作する。
定量法
　本品の適当量について、ガンマ線測定法の電離箱による測定法の放射能の定量により放射能を測定する。
35　３―ヨードベンジルグアニジン（^{131}I）注射液
　本品は、水性の注射剤で、ヨウ素131を３―ヨードベンジルグアニジンの形で含む。本品は、担体として、３―ヨードベンジルグアニジンを含む。本品は、定量するとき、検定日時において、ヨウ素131の表示された放射能の90～110%を含む。本品の比放射能は、検定日時において、３―ヨードベンジルグアニジン１㎎に対し111～185MBqである。
製法
　本品は、３―ヨードベンジルグアニジンのヨウ素原子をヨウ素131で置換させ、未反応のヨウ素131及び遊離したヨウ素を除いて精製した後、注射剤の製法により製する。
性状
　本品は、無色澄明の液である。
確認試験
⑴　「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の確認試験⑴を準用する。
⑵　純度試験により確認する。
pH
　4.0～5.0
純度試験（放射化学的異物）
　ヨウ化ナトリウム0.5ｇ、ヨウ素酸ナトリウム1.0ｇ及び炭酸水素ナトリウム5.0ｇに水を加えて溶かして1000mLとした液の適量を担体として、80vol%メタノール溶液を展開溶媒として、薄層クロマトグラフィーにより約10㎝展開して試験を行うとき、３―ヨードベンジルグアニジン（^{131}I）のスポット以外の放射能は、薄層上の総放射能の５%以下である。
　なお、３―ヨードベンジルグアニジン（^{131}I）のスポットは、硫酸３―ヨードベンジルグアニジンの生理食塩液溶液（１→200）の適量を同様に展開し、チミン・１―ナフトール試液を噴霧して乾燥させ、もう一度噴霧して乾燥させた後、薄めた次亜塩素酸ナトリウム試液（１→５）を噴霧したときの呈色により確認する。また、薄層板は薄層クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを用いて調製する。
定量法
　「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の定量法を準用する。
36　ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液
　本品は、水性の液剤で、ヨウ素131をヨウ化ナトリウムの形で含む。本品は、担体として、ヨウ化ナトリウムの微量を含むことがある。本品は、定量するとき、検定日時において、ヨウ素131の表示された放射能の90～110%を含む。